



1 温かい企業の応援に感謝!



制作したホームページを説明する木元さん



県立 IT短大

(左から) 事業主『株式会社エム・シー・エー』の永井幸廣社長と木元心結さん

「ホームページ制作」を成果発表した木元心結さん(多賀高卒)は、「デザインだけでなく、ユーザーや運用側の視点に立って制作しました」と工夫点を説明していました。指導された松浦先生は「真面目で、自分なりに学びを深める努力家です」と目を細めていました。事業主(企業)推薦で入学した木元さんは、「学費だけでなく、お給料もいただくなど、企業の温かい応援が有難かった」と感謝を述べていました。

卒業式に参列された『株式会社エム・シー・エー』の永井幸廣社長は「若い人達の気概と情熱をこれからも応援したい」と力を込めていました。来年度、事業主推薦で3つの企業から5名の学生が入学する予定です。

2 ユーザーニーズ正しく実装

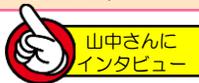


プレゼン資料を説明する山中さん

「システムの製作工程」を成果発表した山中悠梨音さん(那珂高卒)は、「ユーザーの要求を正しく実装へつなぐための学びを整理しました」と説明していました。また、「頑張った分、話したいことを整理し発表できました」と嬉しそうに話していました。

Q 後輩の皆さんへのメッセージは?

A 自分の立場や状況をしっかり考えて行動することが出来る人になって下さい。そうすれば未来への道が開けると思います。



山中さんにインタビュー

3 『記事トレ』紹介



本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

＜記事トレ＞日本経済新聞(2026年1月10日)
サイバー防衛委、学生ら競う

次世代の人材輩出見据え

●千葉春奈さん(多賀高卒)

◇要約: 埼玉県警など10都県の警察が、中高生や大学生を対象としたサイバーセキュリティ競技会(CTF)を合同開催した。

深刻化するサイバー犯罪に対抗するため、次世代を担う高度な専門人材を発掘することを目指している。

◇感想: 警察が若者の技術を「守る側」のスペシャリスト育成に繋げる場を設けるのはとても有意義だ。

こうした競技会が、学生達のスキルを社会のためにどう活かすかを考える、キャリア形成の貴重なきっかけになると感じた。

●水津知大さん(常磐大高卒)

◇感想: 国内のサイバー攻撃の被害が年々増え続けている。それは、日本が他国に比べ、防衛のための技術促進が遅れているためだ。自分達が少しずつ

追いつけるように専門技術を高めていきたい。



●相田泰我さん(水戸商高卒)

◇感想: 教科書で学ぶ数学や情報の知識が、サイバー犯罪を防ぐ実践的な技術に直結していることに驚いた。

警察が大会を開くほど人材不足は深刻だと感じたので、自分もITスキルを磨き社会に貢献できる道を進んでいきたい。

●藤村幸平さん(石岡商高卒)

◇感想: サイバー攻撃の予兆となる不審なアクセスが、5年で2倍になっており、その殆どが海外からということに驚いた。

そうした攻撃から守るためのセキュリティ技術の重要性を再認識した。IT技術者として、セキュリティに関心をもち続けていきたい。

●渡邊正史さん(多賀高卒)

◇感想: サイバー攻撃が高度化していく現代では、学生のうちからITの実践経験を詰める場を設けることは重要だと思った。

競技形式で行うことで意欲を高め、将来的に優秀なサイバーセキュリティ人材の育成や企業の人材確保にも役立つと感じた。

